

**宮城県美田園高等学校**  
**令和7年度 第2回学校評議員会 記録抜粋**

**1 日時**

令和8年3月8日（日）午後1時～午後2時30分

**2 会場**

宮城県美田園高等学校 会議室

**3 情報交換**

- I 令和7年度教育活動についての質疑
- II 令和7年度「学校評価アンケート」結果と分析についての質疑
- III 令和7年度学校運営改善の取組についての質疑

**4 各評議員からの助言**

**【A評議員】**

授業や面談の場でアプリ（Google Classroom 等）のダウンロードを求められることがあるが、通信無制限のプランに入っていない生徒にとっては負担となる。学校内に Wi-Fi を使える部屋を設けることや、教育振興会からの出資も含めて検討すべきである。スマホ時代の教育として、生徒がノートパソコン等を持ち込んで学習できる環境づくりが必要である。

**【B評議員】**

「通信制高校のシステム」がまだ中学校の教員に十分理解されていないところがある。たとえば、登校して2時間だけ授業を受けて帰る生徒さんに対し、「スクーリングは1時間目から6時間目まで全て受けなければならない」から、美田園高校は難しいなどと助言していたケースを知っている。年間で、科目ごとの必要時数さえ満たせばいいという仕組みが正しく理解されれば、救われる生徒はもっと多いはずである。

本校の学習支援システムは本来、全日制高校などでも展開されるべき優れた取組である。

中学校の先生や保護者に対し、「どのような生徒が本校でうまく適応できているか」という卒業生（中学校からストレートに美田園高校に進学した生徒だけでなく、他の高校を退学して美田園高校に入っている生徒も含む）の具体例を伝えることが最も効果的な周知になる。また、高校中退者や高卒認定試験を検討している層に対し、保健福祉部局等と連携して本校の情報を届けるべきである。

### 【C評議員】

卒業式での生徒の言葉を聞き、年齢も歩み方も異なる多様な人々が共に学ぶことが、この学校の最大の特徴であり誇りであると感じた。

現在の大学は「全入時代」であり、履修指導も非常に手厚くなっている。入学直後の数日間、缶詰状態で履修登録を指導する大学もある。本校の「一人ひとりに合わせた履修指導」は、大学以上に丁寧で教員の負担も大きいですが、それが生徒の安心につながっている。

大学に入学しても体力・気力の問題で前期・後期に退学してしまう学生が増えている。生徒が進学・就職する際、その先にどのような支援体制があるかを事前に教員と共に調べ、大きな挫折を味わう前に適切な支援に繋がられるような準備が重要である。